

平成二十六年年度 推薦入試（文学科 日本語日本文学専攻） 解答例

日本語日本文学専攻の小論文は、問一では文章を的確に読み取り要約する力を問い、問二ではそれをもとに多様な考えを論述する表現力を問うものである。よって、問二においては解答例に代えて出題の意図を示す。

問一（二五点）

【採点のポイント】

- ・ 口頭語「たそ」の時期、作られた古語「たぞ」の時期、その間の時期を指摘できていること。
- ・ 文学史や時代区分についての記述が適切であること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。
- ・ 解答の文頭・文末が、問いに対して呼応していること。

【解答例】

「たそ」は奈良時代の万葉集から江戸時代初頭までは口頭語としてつかわれていて、清音の「たそ」であった。江戸中期以降は口頭語でなくなったため、「誰（た）」＋助詞と分析されうることとなったが、この助詞は、昭和になって古代には「そ」だったことが知られる以前は濁音の「ぞ」と考えられていたから、大正時代の古典学では「たぞ」である。この「たぞ」が江戸時代までさかのぼるかどうかはまだよくわかっていない。（一九五字）

問二（七五点）

【出題の意図】

「本文の校訂」は、日本語日本文学専攻に入学した学生にとっては常に意識すべき問題となる。高校までの授業では特に意識してはいないだろうが、教科書の濁点一つにも問題は潜んでいることを、本文から読み取ってほしい。そのうえで、高校での古典学習の体験を踏まえつつ、自分の意見を論理的に表現できるかどうかを問うものである。

【採点のポイント】

- ・ 問題文を正しく理解していること。
- ・ 自分の考えを明示していること。
- ・ これまでの古典学習の体験を踏まえていること。
- ・ 段落分けなど文章の構成がきちんとしていること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。